



default (auto-config application) through direct-inward-dial

- [default \(auto-config application\) \(3 ページ\)](#)
- [default \(MGCP profile\) \(5 ページ\)](#)
- [default \(SIP\) \(8 ページ\)](#)
- [default-file vfc \(10 ページ\)](#)
- [define \(11 ページ\)](#)
- [delete vfc \(14 ページ\)](#)
- [description \(15 ページ\)](#)
- [description \(ctl file\) \(19 ページ\)](#)
- [description \(dial peer\) \(20 ページ\)](#)
- [description \(DSP farm profile\) \(21 ページ\)](#)
- [description \(dspfarm\) \(22 ページ\)](#)
- [description \(media-profile\) \(23 ページ\)](#)
- [description \(phone proxy\) \(24 ページ\)](#)
- [description \(SCCP Cisco CallManager\) \(25 ページ\)](#)
- [description \(trunk group\) \(26 ページ\)](#)
- [description \(voice class\) \(27 ページ\)](#)
- [description \(voice source group\) \(28 ページ\)](#)
- [destination e164-pattern-map \(29 ページ\)](#)
- [destination uri \(31 ページ\)](#)
- [destination-pattern \(33 ページ\)](#)
- [destination-pattern \(interface\) \(37 ページ\)](#)
- [destination route-string \(39 ページ\)](#)
- [detect v54 channel-group \(40 ページ\)](#)
- [detect-fax mode \(41 ページ\)](#)
- [device-id \(43 ページ\)](#)
- [dhcp interface \(44 ページ\)](#)
- [dial-control-mib \(46 ページ\)](#)
- [dial-peer cor custom \(48 ページ\)](#)

- dpg (49 ページ)
- dial-peer cor list (50 ページ)
- dial-peer data (51 ページ)
- dial-peer hunt (53 ページ)
- dial-peer inbound selection creation-order (55 ページ)
- dial-peer inbound selection sip-trunk (56 ページ)
- dial-peer no-match disconnect-cause (58 ページ)
- dial-peer outbound status-check pots (59 ページ)
- dial-peer search type (62 ページ)
- dial-peer terminator (64 ページ)
- dial-peer video (66 ページ)
- dial-peer voice (67 ページ)
- dial-type (71 ページ)
- dialer extsig (73 ページ)
- dialer preemption level (74 ページ)
- dialer trunkgroup (76 ページ)
- digit (77 ページ)
- digit-strip (79 ページ)
- digital-filter (82 ページ)
- direct-inward-dial (83 ページ)

default (auto-config application)



- (注) この製品のマニュアルセットは、偏向のない言語を使用するように配慮されています。このドキュメントセットでの偏向のない言語とは、年齢、障害、性別、人種的アイデンティティ、民族的アイデンティティ、性的指向、社会経済的地位、およびインターセクショナリティに基づく差別を意味しない言語として定義されています。製品ソフトウェアのユーザーインターフェイスにハードコードされている言語、RFP のドキュメントに基づいて使用されている言語、または参照されているサードパーティ製品で使用されている言語によりドキュメントに例外が存在する場合があります。

自動設定アプリケーションコンフィギュレーションコマンドをデフォルト値に設定するには、自動設定アプリケーションコンフィギュレーションモードで **default** コマンドを使用します。

default command

構文の説明

<i>command</i>	自動設定アプリケーションコンフィギュレーションコマンドの1つ。有効な選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • retries • server • shutdown • timeout
----------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

自動構成アプリケーション コンフィギュレーション (auto-config-app)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(8)XY	このコマンドが通信メディアモジュールに導入されました。
12.3(14)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(14)T に統合されました。

例

次の例では、自動設定アプリケーションのダウンロードの再試行回数をデフォルト値に設定するために使用される **default** コマンドを示しています。

```
Router (auto-config-app) #
default retries
```

関連コマンド

コマンド	説明
auto-config	SCCP アプリケーションの自動設定を有効化するか、自動設定アプリケーション コンフィギュレーション モードを開始します。
show auto-config	自動設定アプリケーションの現在のステータスを表示します。

default (MGCP profile)

Media Gateway Control Protocol (MGCP プロファイル) コマンドをデフォルト値に設定するには、MGCP プロファイル コンフィギュレーションモードで **default** コマンドを使用します。デフォルトのコマンドを無効化するには、そのプロファイルパラメータのコマンドの **no** 形式を使用します。

default *command*
no default *command*

構文の説明	<p><i>command</i> MGCP プロファイルコマンドの1つ。有効な選択肢は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • call-agent • description (MGCP プロファイル) • max1 lookup • max1 retries • max2 lookup • max2 retries • package persistent • timeout tcrit • timeout tdinit • timeout tdmx • timeout tdmn • timeout thist • timeout tone busy • timeout tone cot1 • timeout tone cot2 • timeout tone dial • timeout tone dial stutter • timeout tone mwi • timeout tone network congestion • timeout tone reorder • timeout tone ringback • timeout tone ringback connection • timeout tone ringing • timeout tone ringing distinctive • timeout tpar • timeout tsmx • voice-port (MGCP プロファイル)
-------	--

コマンド デフォルト デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード MGCP プロファイル コンフィギュレーション (config-mgcp-profile)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 で導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、MGCP プロファイルの値を設定する際に使用されます。

default (MGCP プロファイル) コマンドは、プロファイルがコールされるたびに、指定されたコマンドのデフォルト値を使用するように MGCP プロファイルに指示します。これは、指定されたコマンドの **no** 形式を使用するのと同じ効果がありますが、**default** コマンドは、どのコマンドがデフォルト値を使用しているかを明確に指定します。

複数のコマンドにデフォルト値を使用するには、各コマンドを別々の行に入力します。

例

次の例では、3 つの MGCP プロファイルコマンドのデフォルト値を設定する方法を示しています。

```
Router(config)# mgcp profile newyork
Router(config-mgcp-profile)# default max1 retries
Router(config-mgcp-profile)# default timeout tdinit
Router(config-mgcp-profile)# default timeout tone mwi
```

関連コマンド	コマンド	説明
	mgcp	MGCP デーモンのリソースを起動して割り当てます。
	mgcp profile	MGCP プロファイルモードを開始して、1 つ以上のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成して構成するか、デフォルトプロファイルを作成します。

default (SIP)

SIP コマンドをデフォルト値にリセットするには、SIP コンフィギュレーションモードで **default** コマンドを使用します。

default command

構文の説明	<p><i>command</i> SIP 設定コマンドの 1 つ。有効な選択肢は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • bind : シグナリングパケットとメディアパケットの送信元アドレスを、特定のインターフェイスの IP アドレスに設定します。 • rel1xx : すべての SIP 暫定応答 (100 Trying 以外) がリモート SIP エンドポイントに確実に送信されるようにします。 • session-transport : TCP または UDP への SIP メッセージの基礎となるトランスポート層プロトコルを構成します。 • url : VoIP SIP コールに SIP 形式または TEL 形式の URL を設定します。
-------	---

コマンド デフォルト デフォルトでは、バインドは無効化されています (**no bind**) 。

コマンド モード 音声サービス voip-sip コンフィギュレーション (conf-serv-sip)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(2)XB	このコマンドが Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 7200 シリーズ、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400 のプラットフォームに導入されました。
	12.2(2)XB2	このコマンドが Cisco AS5850 プラットフォームに導入されました。
	12.2(8)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合され、Cisco 3700 シリーズ用にサポートが追加されました。Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5850、Cisco AS5400 のプラットフォームは、このリリースではサポートされていませんでした。
	12.2(11)T	Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5850 の各プラットフォームに対するサポートが追加されました。
	Cisco IOS XE Release 2.5	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 2.5 に統合されました。

例 次の例では、SIP **bind** コマンドの値をリセットする方法を示しています。

```
Router(config)# voice serv voip
```

```
Router (conf-voi-serv) # sip
Router (conf-serv-sip) # default bind
```

関連コマンド

コマンド	説明
sip	voice-service VoIP コンフィギュレーションモードから SIP コンフィギュレーションモードを開始します。

default-file vfc

デフォルトのファイルリストにあり、音声機能カード（VFC）のフラッシュメモリに保存されているものから追加の（または異なる）ファイルを指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **default file vfc** コマンドを使用します。デフォルトのファイルリストを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

default-file filename vfc slot
no default-file filename vfc slot

構文の説明	<i>filename</i>	VFC フラッシュメモリから取得され、システムの起動に使用されるファイルを示します。
	<i>slot</i>	VFC が取り付けられている Cisco AS5300 のスロットを示します。範囲は 2 までです。デフォルト値はありません。

コマンド デフォルト デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	11.3(1)NA	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
	12.0(3)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.0(3)T に統合されました。

使用上のガイドライン VCWare がバンドルされていない場合、自動的に DSPWare をフラッシュメモリに追加し、機能リストとデフォルトファイルリストの両方を作成し、これらのリストにそのバージョンの VCWare のデフォルトファイルを入力します。デフォルトのファイルリストには、システムの起動に使用されるファイルが含まれています。

default-file vfc コマンドを使用して、指定したファイルをデフォルトのファイルリストに追加し、その拡張子タイプに対する既存のデフォルトを置き換えます。

例

次の例では、VFC フラッシュメモリに保存されている `bas-vfc-1.0.14.0.bin` ファイルをデフォルトのファイルリストに追加するように指定しています。

```
default-file bas-vfc-1.0.14.0.bin vfc 0
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cap-list vfc	機能ファイルリストに音声コーデック オーバーレイファイルを追加します。
	delete vfc	VFC フラッシュメモリからファイルを削除します。

define

北米の ear and mouth (E&M)、E&M Mercury Exchange Limited Channel-Associated Signaling (MELCAS)、陸上移動無線 (LMR) 音声シグナリングの送受信ビットを定義するには、音声ポート コンフィギュレーションモードで **define** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
define {tx-bits|rx-bits} {seize|idle} {0000|0001|0010|0011|0100|0101|0110|0111|1000|1001|1010|1011|1100|1101|1110|1111}
no define {tx-bits|rx-bits} {seize|idle} {0000|0001|0010|0011|0100|0101|0110|0111|1000|1001|1010|1011|1100|1101|1110|1111}
```

構文の説明

tx-bits	ビットパターンは、送信シグナリングビットに適用されます。
rx-bits	ビットパターンは、受信シグナリングビットに適用されます。
seize	ビットパターンは、捕捉された状態を定義します。
idle	ビットパターンは、アイドル状態を定義します。
0000 through 1111	ビットパターンを指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、次のように、American National Standards Institute (ANSI) および European Conference of Postal and Telecommunications Administrations (CEPT) 標準で定義されているプリセット シグナリングパターンが使用されます。

- 北米の E&M の場合：
 - tx-bits アイドル 0000 (E1 トランクの場合は 0001)
 - tx ビットは 1111 を捕捉します
 - rx-bits アイドル 0000
 - rx ビットは 1111 を捕捉します
- E&M MELCAS の場合：
 - tx-bits アイドル 1101
 - tx ビットは 0101 を捕捉します
 - rx-bits アイドル 1101
 - rx ビットは 0101 を捕捉します
- LMR の場合：
 - tx-bits アイドル 0000
 - tx ビットは 1111 を捕捉します
 - rx-bits アイドル 0000
 - rx ビットは 1111 を捕捉します

コマンドモード 音声ポート コンフィギュレーション (config-voiceport)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)MA3	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
12.0(7)XK	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに追加されました。
12.1(2)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.1(2)T に統合されました。
12.3(4)XD	このコマンドが適用されるシグナリングタイプに、LMR シグナリングタイプが追加されました。
12.3(7)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。
12.3(14)T	このコマンドが Cisco 2800 および Cisco 3800 シリーズに導入されました。
12.4(2)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.4(2)T に統合されました。

使用上のガイドライン **define** コマンドは、T1/E1 コントローラに関連付けられた E&M デジタル音声ポートに適用されます。

define コマンドを使用して、E&M ビットパターンに接続されているテレフォニーデバイスと一致させます。E1 のすべて 0000 や同一の捕捉状態およびアイドル状態など、無効な構成を定義しないように注意してください。このコマンドは、**ignore** コマンドとともに使用します。

LMR シグナリングでは、**define** コマンドを使用して、E&M アナログおよびデジタル音声ポートの極性を定義します。

例

北米の E&M シグナリング形式でトラフィックを送信する Cisco 2600 または Cisco 3600 シリーズルータの音声ポートを設定して、シグナリングを MELCAS 形式に変換するには、次のコマンドを入力します。

```
voice-port 1/0/0
  define rx-bits idle 1101
  define rx-bits seize 0101
  define tx-bits idle 1101
  define tx-bits seize 0101
```

この例では、LMR シグナリング形式でトラフィックを送信している Cisco 3700 シリーズルータの音声ポートに逆極性が設定されています。

```
voice-port 1/0/0
  define rx-bits idle 1111
  define rx-bits seize 0000
  define tx-bits idle 1111
  define tx-bits seize 0000
```

関連コマンド

コマンド	説明
condition	すべての音声シグナリングタイプのシグナリングビットパターンを操作します。
ignore	特定の受信ビットを無視するように北米の E&M または E&M MELCAS 音声ポートを設定します。

delete vfc

音声機能カード（VFC）のフラッシュメモリからファイルを削除するには、特権EXECモードで **delete vfc** コマンドを使用します。

delete filename vfc slot

構文の説明	構文	説明
	<i>filename</i>	削除する VFC フラッシュメモリ内のファイルを指定します。
	<i>slot</i>	指定された VFC が存在する Cisco AS5300 のスロットを指定します。範囲は 0 ~ 2 です。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	11.3(1)NA	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
	12.0(3)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.0(3)T に統合されました。

使用上のガイドライン **delete vfc** コマンドを使用して、VFC フラッシュメモリから特定のファイルを削除し、指定したファイルがデフォルトのリストまたは機能リストに含まれている場合はそれらのリストからファイルを削除します。



(注) VFC フラッシュメモリからファイルを削除しても、そのファイルが占有していた VFC フラッシュメモリ領域は解放されません。VFC フラッシュメモリ領域を解放するには、**erase vfc** コマンドを使用します。

例

次の例では、スロット 0 にある VFC の VFC フラッシュメモリに保存されている `bas-vfc-1.0.14.0.bin` ファイルを削除します。

```
Router# delete bas-vfc-1.0.14.0.bin vfc 0
```

関連コマンド	Command	Description
	default-file vfc	デフォルトのファイルリストにあり、VFC フラッシュメモリに保存されているファイルから追加の（または別の）ファイルを指定します。
	erase vfc	指定した VFC のフラッシュメモリを消去します。
	show vfc directory	この VFC に存在するすべてのファイルのリストを表示します。

description

デジタルシグナルプロセッサ（DSP）インターフェイスの説明を指定するには、音声ポートまたはDSPファームインターフェイスコンフィギュレーションモードで **description** コマンドを使用します。定義されているMGCPプロファイルを記述するには、MGCPプロファイルコンフィギュレーションモードで **description** コマンドを使用します。課金プロファイルの名前または簡単な説明を指定する場合は、課金プロファイルコンフィギュレーションモードで **description** コマンドを使用します。設定された説明を削除するには、適切なコンフィギュレーションモードでコマンドの **no** 形式を使用します。

description *string*

no description

構文の説明

<i>string</i>	DSP インターフェイスおよび MGCP プロファイルの場合は 1 ～ 80 文字、課金プロファイルの場合は 1 ～ 99 文字の文字列。
---------------	---

コマンドデフォルト

null 文字列で有効になります。MGCPプロファイルには、デフォルトの説明がありません。課金プロファイルには、デフォルトの説明がありません。

コマンドモード

音声ポートコンフィギュレーション (config-voiceport) DSPファームインターフェイスコンフィギュレーション (config-dspfarm-profile) MGCPプロファイルコンフィギュレーション (config-mgcp-profile) 課金プロファイルコンフィギュレーション (ch-prof-conf)

使用上のガイドライン

description のような文字設定に「\」（バックスラッシュ）などの特殊文字および3桁以上の数字を使用すると、誤って変換されます。

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズおよび Cisco 7200 シリーズに導入されました。
11.3(1)MA	音声ポートコンフィギュレーションモードで、このコマンドが Cisco MC3810 に導入されました。
12.0(5)XE	DSPファームインターフェイスコンフィギュレーションモードで、このコマンドが変更されました。
12.1(1)T	DSPファームインターフェイスコンフィギュレーションモードの変更は、Cisco IOS リリース 12.1(1)T に統合されました。
12.2(2)XA	このコマンドが Cisco AS5300 で導入されました。
12.2(11)T	このコマンドは Cisco AS5850 に導入され、Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。

リリース	変更内容
12.3(8)XU	このコマンドが課金プロファイルコンフィギュレーションモードに導入されました。
12.3(11)YJ	課金プロファイルコンフィギュレーションモードで、このコマンドはCisco IOS リリース 12.3(11)YJ に統合されました。
12.3(14)YQ	課金プロファイルコンフィギュレーションモードで、このコマンドはCisco IOS リリース 12.3(14)YQ に統合されました。
12.4(9)T	このコマンドはCisco IOS リリース 12.4(9)T に統合されました。
12.2(33)SXH	このコマンドは、説明に余白文字を含めることができるように変更されました。

使用上のガイドライン

description コマンドを使用して、DSP インターフェイス接続または定義済みの MGCP プロファイルを記述します。この情報は、**show** コマンドに表示されます。この情報がインターフェイスの動作に影響を与えることは一切ありません。

リリース 12.2(33)SXH 以降のリリースでは、説明に余白文字を入力できます。

例

次の例では、音声ポート 1/0/0 が購買部門に接続されていることを識別しています。

```
voice-port 1/0/0
  description purchasing-dept
```

次の例では、DSP ファームインターフェイス 1/0 がマーケティング部門に接続されていることを識別しています。

```
dspint dspfarm 1/0
  description marketing-dept
```

次の例では、MGCP プロファイルの説明を示しています。

```
mgcp profile newyork
  description This is the head sales office in New York.
  dot ... (socket=0)
  S:.
  R:250 NAA09092 Message accepted for delivery
  S:QUIT
  R:221 madeup@abc.com closing connection
  Freeing SMTP ctx at 0x6121D454
  returned from work-routine, context freed
```

次の例では、ホームユーザの APN レベルでのデフォルトとして、課金プロファイルの説明をしています。

```
gprs charging profile
  description APN-level_default_for_home_users
```

関連コマンド

コマンド	説明
category	課金プロファイルを適用する加入者カテゴリを指定します。
cdr suppression	課金プロファイルの課金特性として呼詳細レコード (CDR) を無効にします。
charging profile	デフォルトの課金プロファイルをアクセス ポイントに関連付けます。
content dcca profile	GGSN 課金プロファイル内で DCCA クライアントプロファイルを定義します。
content postpaid time	課金プロファイルの後払いユーザのトリガー条件として、GGSN がアップストリームトラフィックおよびダウンストリームトラフィックのバイト数を集計し、特定の PDP コンテキストに対する G-CDR を終了してアップデートするまでの制限時間を指定します。
content postpaid validity	課金プロファイルのトリガー条件として、後払いユーザに付与された時間クォータが有効であるように指定します。
content postpaid volume	課金プロファイルの後払いユーザのトリガー条件として、GGSN が G-CDR を終了してアップデートするまでに特定の PDP コンテキストの全コンテナで保持する最大バイト数を指定します。
content rulebase	デフォルトのルールベース ID を課金プロファイルに関連付けます。
gprs charging characteristics reject	課金プロファイルが選択できない PDP コンテキスト作成要求は、GGSN により拒否されるよう指定します。
gprs charging container time-trigger	GGSN が特定の PDP コンテキストに対する G-CDR を終了してアップデートするまでのグローバルな制限時間を指定します。
gprs charging profile	課金プロファイルを作成 (または既存の課金プロファイルを修正) し、課金プロファイル コンフィギュレーションモードを開始します。
limit duration	課金プロファイルのトリガー条件として、GGSN がアップストリームトラフィックおよびダウンストリームトラフィックのバイト数を集計し、特定の PDP コンテキストに対する G-CDR を終了してアップデートするまでの制限時間を指定します。
limit sgsn-change	課金プロファイルのトリガー条件として、特定の PDP コンテキストに対する G-CDR を終了してアップデートするまでに可能な GGSN 変更の最大回数を指定します。
limit volume	課金プロファイルのトリガー条件として、GGSN が G-CDR を終了してアップデートするまでに特定の PDP コンテキストの全コンテナで保持する最大バイト数を指定します。

コマンド	説明
mgcp	MGCP デーモンのリソースを起動して割り当てます。
mgcp profile	MGCP プロファイルモードを開始して、1つ以上のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成して構成するか、デフォルトプロファイルを構成します。
tariff-time	課金プロファイルが gprs charging tariff-time グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定された料金変更を使用するように設定します。

description (ctl file)

Cisco Certificate Trust List (CTL) ファイルの説明を設定するには、CTL ファイルコンフィギュレーションモードで **description** コマンドを使用します。CTL ファイルの説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *description*

構文の説明 *description* CTL ファイルの説明。説明の最大長は 100 文字です。

コマンド デフォルト 説明が設定されていません。

コマンド モード CTL ファイル コンフィギュレーション モード (config-ctl-file)

コマンド履歴 リリース 変更内容
ス

15.3(3)M このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

例

次の例では、CTL ファイルインスタンスの説明を設定する方法を示しています。

```
Device(config)# voice-ctl-file myctl
Device(config-ctl-file)# description ctlfile1
```

description (dial peer)

ダイヤルピアに説明を追加するには、ダイヤルピア コンフィギュレーションモードで **description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *string*
no description

構文の説明	<i>string</i>	64 文字以下の英数字文字列。
-------	---------------	-----------------

コマンド デフォルト 無効 (Disabled)

コマンド モード ダイヤル ピア設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(2)T	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r	YANG モデルでのサポートが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、ダイヤルピアの説明テキストを含めます。説明は **show** コマンドの出力に表示され、ダイヤルピアの動作には影響しません。

例

次の例では、ダイヤルピアに含まれる説明を示しています。

```
dial-peer voice 1 pots
description inbound PSTN calls
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dial-peer voice	ダイヤルピアを定義します。
	show dial-peer voice	ダイヤルピアの設定情報を表示します。

description (DSP farm profile)

デジタルシグナルプロセッサ（DSP）ファームプロファイルに関する特定の説明を含めるには、DSP ファームプロファイル コンフィギュレーション モードで **description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *text*
no description *text*

構文の説明

<i>text</i>	1 ～ 80 文字の文字列。
-------------	----------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

DSP ファーム プロファイル コンフィギュレーション (config-dspfarm-profile)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、この DSP ファームプロファイルに関する説明テキストを含めます。この情報は、**show** コマンドに表示されます。この情報がインターフェイスの動作に影響を与えることはありません。

例

次の例では、DSP ファームプロファイルがアート部門に指定されていることを識別しています。

```
Router(config-dspfarm-profile)# description art dept
```

関連コマンド

コマンド	説明
codec (DSP farm profile)	DSP ファームプロファイルでサポートされるコーデックを指定します。
dspfarm profile	DSP ファーム プロファイル コンフィギュレーション モードを開始し、DSP ファーム サービス用のプロファイルを定義します。
maximum sessions (DSP Farm profile)	このプロファイルでサポートする必要がある最大セッション数を指定します。
shutdown (DSP farm profile)	DSP ファームリソースを割り当て、アプリケーションに関連付けます。

description (dspfarm)

デジタルシグナルプロセッサ (DSP) インターフェイスに関する特定の説明を含めるには、DSP ファームインターフェイス コンフィギュレーション モードで **description** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *string*
no description *string*

構文の説明

<i>string</i>	1～80文字の文字列。
---------------	-------------

コマンド デフォルト

null 文字列で有効になります。

コマンド モード

DSP ファームインターフェイス コンフィギュレーション (config-dspfarm-profile)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 7200 シリーズルータに導入されました。
12.0(5)XE	このコマンドは、テキスト文字列で許容される最大文字数を 255 から 80 に削減するように変更されました。
12.1(1)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.1(1)T に統合されました。

使用上のガイドライン

description コマンドを使用して、この DSP ファームインターフェイス接続に関する説明テキストを含めます。この情報は、**show** コマンドに表示されます。この情報がインターフェイスの動作に影響を与えることは一切ありません。

例

次の例では、マーケティング部門に接続されている Cisco 7200 シリーズルータの DSP ファームインターフェイス 1/0 を識別しています。

```
dspint dspfarm 1/0
description marketing dept
```

description (media-profile)

CUBE にメディアプロファイルに固有の説明を含めるには、メディアプロファイル コンフィギュレーション モードで **description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

connection description *string*
no connection description *string*

構文の説明

<i>string</i>	メディアプロファイルへの固有の説明。
---------------	--------------------

コマンド デフォルト

デフォルトでは、ディセーブルです。

コマンド モード

メディアプロファイル コンフィギュレーション モード (cfg-mediaprofile)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Bengaluru 17.6.1a	このコマンドが Cisco Unified Border Element に導入されました。

使用上のガイドライン

description コマンドは、メディアプロファイルに固有の詳細を提供します。

例

以下は、CUBE での **description (media-profile)** の構成例です。

```
router(cfg-mediaprofile)#description ?
WORD Specify hostname or IP address of proxy server

router(cfg-mediaprofile)#description <text>
```

関連コマンド

コマンド	説明
media profile stream-service	CUBE でストリームサービスを有効化します。
connection (media-profile)	メディアプロファイルのアイドルタイムアウトとコールしきい値を設定します。
proxy (media-profile)	メディアプロファイルのプロキシの IP アドレスまたはホスト名を設定します。
source-ip (media-profile)	WebSocket 接続のローカル送信元 IP アドレスを設定します。
media class	ダイヤルピアレベルでメディアクラスを適用します。

description (phone proxy)

電話プロキシの説明を指定するには、電話プロキシコンフィギュレーションモードで **description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description*description*
no description

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

説明が指定されていません。

コマンド モード

電話プロキシ コンフィギュレーション モード (config-phone-proxy)

コマンド履歴

リリー 変更内容
 ス

15.3(3)M このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

例

次の例では、**first-pp** という電話プロキシインスタンスを作成し、電話プロキシコンフィギュレーションモードを開始して、このインスタンスの説明を設定する方法を示しています。

```
Device(config)# voice-phone-proxy first-pp
Device(config-phone-proxy)# description cluster-test
```

description (SCCP Cisco CallManager)

Cisco CallManager グループに関する説明を含めるには、SCCP Cisco CallManager コンフィギュレーション モードで **description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *text*

no description

構文の説明

<i>text</i>	1 ~ 80 文字の文字列。
-------------	----------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

SCCP Cisco CallManager コンフィギュレーション (config-sccp-ccm)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、Cisco CallManager グループに関する説明テキストを含めます。この情報は、**show** コマンドに表示されます。この情報がインターフェイスの動作に影響を与えることはありません。

例

次の例では、ボストンのオフィスに指定されている SCCP を識別しています。

```
Router(config-sccp-ccm)# description boston office
```

関連コマンド

コマンド	説明
associate ccm	CCisco CallManager を CCisco CallManager グループに関連付けて、グループ内の優先順位を確立します。
connect retries	現在の Cisco CallManager 接続が失敗した際に、DSP ファームが Cisco CallManager への接続を試行する回数を指定します。
sccp ccm group	Cisco CallManager グループを作成し、SCCP Cisco CallManager コンフィギュレーション モードを開始します。

description (trunk group)

トランクグループに説明を追加するには、トランクグループ コンフィギュレーション モードで **description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *string*
no description *string*

構文の説明

<i>string</i>	トランクグループの説明。最大長は英数字 63 文字です。
---------------	------------------------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

トランクグループ コンフィギュレーション (config-trunk-group)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、トランクグループの説明を示しています。

```
Router(config)# trunk group alpha1
Router(config-trunk-group)# description carrierAgroup1
```

関連コマンド

コマンド	説明
trunk group	トランクグループの定義を開始します。

description (voice class)

TLS プロファイルグループの説明を提供し、それを TLS プロファイルに関連付けるには、音声クラス コンフィギュレーション モードで **description** コマンドを使用します。TLS プロファイルグループの説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *tls-profile-group-label*
no description

構文の説明

<i>tls-profile-group-label</i>	TLS プロファイルグループの説明を入力できます。
--------------------------------	---------------------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

音声クラス設定 (config-class)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1a	このコマンドは、音声クラスコンフィギュレーション モードで導入されました。 Yang モデルのサポートが導入されました。

使用上のガイドライン

TLS プロファイルグループの説明は、コマンド **voice class tls-profiletag** によって TLS プロファイルに関連付けられます。*tag* によって TLS プロファイルグループの説明を **crypto signaling** コマンドに関連付けます。

例

次の例では、音声クラス **tls-profile** を作成し、説明 TLS プロファイルグループを関連付ける方法を示しています。

```
Router(config)#voice class tls-profile 2
Router(config-class)#description tlsgroupname
```

関連コマンド

コマンド	説明
voice class tls-profile	TLS セッションに必要なコマンドを構成するためのサブオプションを提供します。
crypto signaling	TLS ハンドシェイクプロセス中に使用されるトラストポイントまたは tls-profile tag を識別します。

description (voice source group)

音声送信元グループに説明を追加するには、音声送信元グループコンフィギュレーションモードで **description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *string*
no description *string*

構文の説明

<i>string</i>	音声送信元グループを記述します。音声送信元グループ記述の最大長は 63 文字の英数字です。
---------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

音声送信元グループ コンフィギュレーション (cfg-source-grp)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、音声送信元グループの説明を示しています。

```
Router(config)# voice source-group northern1
Router(cfg-source-grp)# description carrierBgroup3
```

関連コマンド

コマンド	説明
voice source-group	音声コールの送信元グループを定義します。

destination e164-pattern-map

E.164 パターンマップをダイヤルピアにリンクするには、ダイヤルピア コンフィギュレーションモードで **destination e164-pattern-map** コマンドを使用します。E.164 パターンマップのリンクをダイヤルピアから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

destination e164-pattern-map tag
no destination e164-pattern-map

構文の説明

<i>tag</i>	接続先 E.164 パターンマップを定義する番号。範囲は 1 ~ 10000 です。
------------	--

コマンドデフォルト

E.164 パターンマップがダイヤルピアにリンクされていません。

コマンドモード

ダイヤル ピア設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

大規模なダイヤルピア設定を伴う、複数の接続先パターンを持つダイヤルピアをサポートするには、E.164 接続先パターンマップを使用します。接続先 E.164 パターンマップを作成し、それをダイヤルピアにリンクできます。パターンマップの検証に基づいて、接続先 E.164 パターンマップにリンクされているダイヤルピアを有効化または無効化することができます。設定された E.164 パターンマップのステータスを取得するには、ダイヤルピア コンフィギュレーションモードで **show dial-peer voice** コマンドを使用します。

例

次の例では、E.164 パターンマップをダイヤルピアにリンクする方法を示しています。

```
Device(config)# dial-peer voice 123 voip system
```

```
Device(config-dial-peer)# destination e164-pattern-map 2154
```

関連コマンド

コマンド	説明
destination-pattern	ダイヤルピアに使用するプレフィックスまたは完全な E.164 電話番号を指定します。
e164	接続先 E.164 パターンマップに E.164 エントリを設定します。
show dial-peer voice	ダイヤルピアの設定情報とコール統計を表示します。

コマンド	説明
url	接続先の E.164 パターンマップに E.164 パターンエントリが構成されているテキストファイルの URL を指定します。

destination uri

ダイヤルピアをアウトバウンドコールの接続先の Uniform Resource Identifier (URI) を照合するために使用する音声クラスを指定するには、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで **destination uri** コマンドを使用します。URI 音声クラスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

destination uri tag
no destination uri

構文の説明

<i>tag</i>	音声クラスを一意に識別する英数字ラベル。このタグは、 voice class uri コマンドで設定する必要があります。
------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

ダイヤル ピア設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**voice class uri** コマンドを使用して音声クラスを設定してください。

このコマンドは、ダイヤルピア照合の新しいルールを適用します。次の表は、**destination uri** コマンドの使用時に適用される規則と順序を示しています。ゲートウェイでは、ダイヤルピアへのアウトバウンドコールを照合するために、**dial-peer** コマンドを **call** パラメータと検索で比較します。すべてのダイヤルピアは、最初の照合基準に基づいて検索されます。ゲートウェイでは、一致が見つからない場合にのみ、次の基準に進みます。

表 1: アウトバウンド URI のダイヤルピア照合ルール

照合順序	Cisco IOS コマンド	発信コールパラメータ
1	destination uri および carrier-id target	アプリケーションから提供された URI とコールに関連付けられた宛先キャリア ID
2	destination-pattern および carrier-id target	コールに関連付けられた着信番号と宛先キャリア ID
3	destination uri	アプリケーションから提供された URI
4	destination-pattern	着信者番号
5	carrier-id target	コールに関連付けられた宛先キャリア ID



- (注) 接続先が URI ではなく E.164 番号であるコールは、既存のダイヤルピア照合ルールを使用します。詳細については、『Cisco IOS 音声コンフィギュレーションライブラリ』にあるドキュメントの「音声ゲートウェイルータでのダイヤルピア コンフィギュレーション (Dial Peer Configuration on Voice Gateway Routers)」を参照してください。

例

次の例では、音声クラス ab100 を使用して、発信コールの接続先 URI を照合しています。

```
dial-peer voice 100 voip
destination uri ab100
```

関連コマンド

コマンド	説明
answer-address	ダイヤルピアと照合する発信者番号を指定します。
debug voice uri	URI 音声クラスに関連付けられた Debug (デバッグ) メッセージを表示します。
destination-pattern	ダイヤルピアと照合する電話番号を指定します。
dial-peer voice	ダイヤルピア コンフィギュレーション モードを開始して、ダイヤルピアを作成または変更します。
incoming uri	VoIP ダイヤルピアが着信コールの URI を照合するために使用する音声クラスを指定します。
pattern	SIP または TEL URI 全体に基づいてコールを照合します。
session protocol	パケット ネットワークを使用するローカルルータとリモートルータ間のコールで使用するセッションプロトコルを指定します。
show dialplan uri	特定の接続先 URI に一致するアウトバウンドダイヤルピアを表示します。
voice class uri	SIP または TEL URI を含むコールにダイヤルピアを一致させるための音声クラスを作成または変更します。

destination-pattern

ダイヤルピアに使用するプレフィックスまたは完全な E.164 電話番号を指定するには、ダイヤルピア コンフィギュレーションモードで **destination-pattern** コマンドを使用します。設定されたプレフィックスまたは電話番号を無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

destination-pattern [{+}]string[**T**]

no destination-pattern [{+}]string[**T**]

構文の説明

+	(オプション) E.164 の標準的な番号を示す文字。
<i>string</i>	<p>E.164 の電話番号またはプライベートダイヤルプランの電話番号パターンを指定する一連の数字。有効なエントリは、0～9 の数字、A～D の文字、および次の特殊文字です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アスタリスク (*) とシャープ記号 (#) : 標準のタッチトーンダイヤルパッドに表示されます。 • カンマ (,) : 数字の間に一時停止を挿入します。 • ピリオド (.) : 入力された任意の数字と一致します (この文字はワイルドカードとして使用されます)。 • パーセント記号 (%) : 直前の数字が 0 回以上発生したことを示します。ワイルドカードの使用法に似ています。 • プラス記号 (+) : 直前の数字が 1 回以上出現したことを示します。 <p>(注) 数字列の一部として使用されるプラス記号は、その文字列が E.164 標準番号であることを示す、数字列の前に使用できるプラス記号とは異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 曲折アクセント (^) : 文字列の先頭に一致することを示します。 • ドル記号 (\$) : 入力文字列の末尾の null 文字列に一致します。 • バックスラッシュ記号 (\) : この記号の後に単一の文字が続き、その文字に一致します。他の意味を持たない単一の文字で使用できます (その文字と一致します)。 • 疑問符 (?) : 前の数字が 0 回または 1 回出現したことを示します。 • ブラケット ([]) : 範囲を示します。範囲は、ブラケットで囲まれた一連の文字です。範囲には 0～9 の数字のみを使用できます。 • 括弧 (()) : パターンを示します。正規表現ルールと同じです。
T	(オプション) destination-pattern 値が可変長のダイヤル文字列であることを示す制御文字。この制御文字を使用すると、ルータでは、すべての桁を受信するまで待機してからコールをルーティングできます。

コマンド デフォルト コマンドは null 文字列で有効になります。

コマンド モード ダイアル ピア設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に導入されました。
12.0(4)XJ	このコマンドは、ストアアンドフォワードFAX用に変更されました。
12.1(1)	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.1(1) に統合されました。
12.0(7)XR	このコマンドは Cisco AS5300 に導入され、ダイアル文字列でプラス記号、パーセント記号、疑問符、ブラケット、括弧の記号をサポートするように変更されました。
12.0(7)XK	このコマンドが変更されました。Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco MC3810 に、ダイアル文字列でのプラス記号、パーセント記号、疑問符、ブラケット、括弧のサポートが追加されました。
12.1(1)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.1(1)T に統合され、Cisco 1750、Cisco 7200 シリーズ、Cisco 7500 シリーズに導入されました。Cisco IOS リリース 12.0(7)XK の Cisco MC3810 についての変更は、このリリースではサポートされていません。
12.1(2)T	Cisco MC3810 の Cisco IOS リリース 12.0(7)XK で行われた変更は、Cisco IOS リリース 12.1(2)T に統合されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、Cisco 3745 に導入されました。
12.2(13)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(13)T に統合され、Cisco 2600XM、Cisco ICS7750、Cisco VG200 に導入されました。
12.4(22)T	IPv6 のサポートが追加されました。
Cisco IOS XE Release 3.3S	このコマンドは Cisco IOS XE リリース 3.3S に統合されました。
15.2(4)M	このコマンドが変更されました。CSCub65380 では、+ シンボルで設定された接続先パターンを持つダイアルピアの動作が変更されました。+ シンボルはダイアルピアから削除されなくなり、想定どおりに照合が行われるようになりました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r	YANG モデルのサポートが開始されました。

使用上のガイドライン **destination-pattern** コマンドを使用して、ダイアルピアの E.164 電話番号を定義します。

設定したパターンは、ダイヤルされた番号をダイヤルピアと照合するために使用されます。次に、ダイヤルピアを使用してコールを完了します。ルータが音声データを受信すると、パケットヘッダー内の着信番号（完全な E.164 電話番号）と音声テレフォニーの接続先パターンとして設定された番号を比較します。次に、ルータは、接続先パターンに対応する左揃えの番号を抽出します。プレフィックスを設定した場合、そのプレフィックスは他の番号の先頭に追加され、ルータがダイヤルするダイヤル文字列が作成されます。接続先パターンのすべての番号が抽出されると、ダイヤルトーンが鳴ります。

世界には、有効な電話番号の長さが異なるエリア（ヨーロッパの特定の国など）があります。オプションの制御文字 **Tdestination-pattern** を使用して、特定の値が可変長のダイヤル文字列であることを示します。この場合、システムでは、桁間タイムアウト値が時間切れになるまでダイヤルされた番号を照合しません。



- (注) Cisco IOS ソフトウェアでは、E.164 電話番号の有効性を検証しません。任意の一連の数字を有効な番号として受け入れます。

例

次の例では、ダイヤルピアの E.164 電話番号 555-0179 の設定を示しています。

```
dial-peer voice 10 pots
 destination-pattern +5550179
```

次の例では、パターン「43」が数字「555」の前に複数回繰り返される接続先パターンの設定を示しています。

```
dial-peer voice 1 voip
 destination-pattern 555(43)+
```

次の例では、前の数字パターンが複数回繰り返される接続先パターンの設定を示しています。

```
dial-peer voice 2 voip
 destination-pattern 555%
```

次の例では、可能な数値が 5550109 ~ 5550199 の接続先パターンの設定を示しています。

```
dial-peer voice 3 vofr
 destination-pattern 55501[0-9]9
```

次の例では、可能な数値が 5550439、5553439、5555439、5557439、5559439 である接続先パターンの構成を示しています。

```
dial-peer voice 4 voatm
 destination-pattern 555[03579]439
```

次の例では、桁ごとの一致が回避され、文字列全体が受信される接続先パターンの設定を示しています。

```
dial-peer voice 2 voip
destination-pattern 555T
```

関連コマンド

コマンド	説明
answer-address	着信コールのダイヤルピアを識別するために使用される完全な E.164 電話番号を指定します。
dial-peer terminator	可変長ダイヤル番号の終端として使用する特殊文字を指定します。
incoming called-number (dial peer)	着信コールをダイヤルピアに関連付けるために、照合可能な数字列を指定します。
prefix	ダイヤルピアのダイヤル番号のプレフィックスを指定します。
timeouts interdigit	指定された音声ポートの桁間タイムアウト値を設定します。

destination-pattern (interface)

電話インターフェイスのISDN電話番号を指定するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **destination-pattern** コマンドを使用します。指定したISDN電話番号を無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

destination-pattern isdn
no destination-pattern

構文の説明

<i>isdn</i>	電話サービスプロバイダーによって割り当てられる 地域 ISDN 電話番号。
-------------	---------------------------------------

コマンドデフォルト

このインターフェイスには、デフォルトのISDN電話番号が定義されていません。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(3)T	このコマンドがCisco 800シリーズに導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Cisco 800 シリーズルータに適用できます。

このコマンドは、ダイヤルピアを作成する場合に指定する必要があります。このコマンドは、ダイヤルピアのコンテキスト内で指定されていない場合は機能しません。ダイヤルピアの作成については、『Cisco 800 シリーズルータ ソフトウェア コンフィギュレーションガイド』を参照してください。

ローカル ISDN 電話番号で市外局番を指定しないでください。

例

次の例では、ローカル ISDN 電話番号として 555-0101 を指定しています。

```
destination-pattern 5550101
```

関連コマンド

Command	Description
dial-peer voice	ダイヤルピア コンフィギュレーション モードを開始し、ダイヤルピアのタイプを定義し、ダイヤルピアに関連付けられたタグ番号を定義します。
no call-waiting	コール待機を無効化します。
port (dial peer)	PA-4R-DTR ポートアダプタのインターフェイスがコンセントレータポートとして動作できるようにします。

Command	Description
ring	Cisco 800 シリーズルータに接続された電話、FAX マシン、モデムに固有の呼び出し音を設定します。
show dial-peer voice	ダイヤルピアの設定情報とコール統計を表示します。

destination route-string

接続先ルートの文字列を設定するには、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで **destination route-string** コマンドを使用します。接続先ルートの文字列を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

destination route-string tag
no destination route-string

構文の説明

tag ルート文字列クラスによって定義されたルート文字列タグ。範囲は1～10000です。

コマンド デフォルト

接続先ルート文字列が設定されていません。

コマンド モード

ダイヤル ピア 設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.3(3)M	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Release 3.10S	このコマンドは Cisco IOS XE リリース 3.10S に統合されました。

使用上のガイドライン

destination route-string コマンドを使用して、接続先ルート文字列と一致するように音声クラスを設定します。ダイヤルピア音声設定モードで定義された接続先ルート文字列は、アウトバウンドダイヤルピアを照合するために使用されます。

例

次の例では、接続先ルート文字列を照合する方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# dial-peer voice 100 voip
Device(config-dial-peer)# destination route-string 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
voice class route-string	ルート文字列に一意的識別子タグを割り当てます。

detect v54 channel-group

リモートデバイスから送信されたコマンドの V.54 ループバック検出を有効化するには、コントローラ コンフィギュレーション モードで **detect v54 channel-group** コマンドを使用します。V.54 ループバック検出機能を無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

detect v54 channel-group *channel-number*
no detect v54 channel-group *channel-number*

構文の説明

<i>channel-number</i>	1 ~ 24 (T1) または 1 ~ 31 (E1) のチャンネル番号。
-----------------------	---------------------------------------

コマンド デフォルト

V.54 ループバック検出は無効化されています。

コマンド モード

コントローラ コンフィギュレーション (config-controller)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(1)T	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに導入されました。

使用上のガイドライン

detect v54 channel-group コントローラ コンフィギュレーション コマンドを使用して、V.54 ループバック検出を有効化します。リモートデバイスは、フラクショナル T1 (FT1) でループアップインバンド ペイロード コマンドシーケンスを送信します。

例

次の例では、チャンネルグループ 1 のループバック検出を設定します。その後、チャンネルグループ 1 のループバック検出が無効化されます。

```
detect v54 channel-group 1
no detect v54 channel-group 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
loopback remote v54 channel-group	相手側チャンネルグループのリモート V.54 ループバックをアクティブにします。

detect-fax mode

FAX検出およびリダイレクトをローカルモードまたは参照モードとして定義するには、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで **detect-fax mode {refer | local} number** コマンドを使用します。FAX 検出とリダイレクトのモードを無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

detect-fax [mode {refer | local}] number
no detect-fax [mode {refer | local}] number

構文の説明

<i>number</i>	FAX マシンの電話番号。
---------------	---------------

コマンド デフォルト

FAX モードの検出が無効化されています。

コマンド モード

ダイヤルピア コンフィギュレーション (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r	このコマンドは、Unified Border Element で導入されました。

使用上のガイドライン

detect-fax mode {refer | local} number 設定コマンドを使用して、FAX モードの検出を有効化します。また、これはリダイレクトに対する FAX マシンの電話番号を指します。

例

次に、Unified Border Element での FAX 検出用のローカルリダイレクトモードの設定例を示します。

```
dial-peer voice 410 voip
description "Incoming dial-peer to CUBE for fax"
session protocol sipv2
incoming called-number 903309
codec g711ulaw
detect-fax mode local 12101 12102
```

```
dial-peer voice 411 voip
description "Outgoing dial-peer to VVB"
destination-pattern 309903
session protocol sipv2
session target ipv4:9.42.25.148 //VVB IP Address
codec g711ulaw
```

```
dial-peer voice 412 voip
description "Incoming dial-peer for VVB"
session protocol sipv2
incoming called-number 309903
codec g711ulaw
```

関連コマンド

コマンド	説明
fax-relay (dial peer)	コールメニュー（CM）トーンまたは応答（ANS）トーンがスーパーグループ 3（SG3）FAX マシンに到達するのを抑制できるようにします。

device-id

決済プロバイダーに関連付けられたゲートウェイを識別するには、決済コンフィギュレーションモードで **device-id** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

device-id *number*
no device-id *number*

構文の説明

<i>number</i>	決済サーバーから提供されたデバイス ID 番号。範囲は 0 ~ 2147483647 です。
---------------	--

コマンドデフォルト

デフォルトのデバイス ID は 0 です。

コマンドモード

決済コンフィギュレーション (config-settlement)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(4)XH1	このコマンドが Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(1)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.1(1)T に統合されました。

使用上のガイドライン

決済プロバイダーに関連付けられたゲートウェイの識別はオプションです。

例

次の例では、デバイス ID を 1000 に設定しています。

```
settlement 0
device-id 1000
```

関連コマンド

コマンド	説明
customer-id	決済プロバイダーのキャリアまたはインターネットサービスプロバイダーを識別します。
settlement	決済 コンフィギュレーションモードを開始します。

dhcp interface

Session Initiation Protocol (SIP) パラメータの Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) プロビジョニングのインターフェイスタイプを設定するには、SIP ユーザーエージェント コンフィギュレーション モードで **dhcp interface** コマンドを使用します。

dhcp interface *type number*

構文の説明	<i>type</i>	設定するインターフェイスのタイプ。
	<i>number</i>	ポート、コネクタ、またはインターフェイスの番号 (注) 番号の形式は、ネットワークモジュールまたはラインカードのタイプ、およびルータが取り付けられているルータのシャーシスロットによって異なります。番号は、工場出荷の際、インストール時またはシステムへの追加時に割り当てられますが、 show interfaces コマンドで表示できません。

コマンド デフォルト SIP パラメータの DHCP プロビジョニング用に設定されたインターフェイスタイプはありません。

コマンド モード SIP UA コンフィギュレーション (config-sip-ua)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.4(22)YB	このコマンドが導入されました。
	15.0 (1) M	このコマンドは Cisco IOS リリース 15.0(1)M に統合されました。

使用上のガイドライン Cisco Unified Border Element の複数のインターフェイスは、DHCP で設定できます。**dhcp interface** コマンドは、SIP で使用される DHCP インターフェイスを指定します。

このコマンドには **no** 形式はありません。

次の表に、**dhcp interface** コマンドで設定できるインターフェイスのタイプを表すキーワードを示します。 *type* 引数を表の適切なキーワードに置き換えます。

表 2: インターフェイスタイプのキーワード

キーワード	インターフェイスタイプ
ethernet	イーサネット IEEE 802.3 インターフェイス。
fastethernet	100 Mbps イーサネット インターフェイス。RITE コンフィギュレーションモードで、エクスポートされる IP トラフィックの発信 (モニタリングされている) インターフェイスを指定します。

キーワード	インターフェイスタイプ
gigabitethernet	1000 Mbps イーサネット インターフェイス。
tengigabitethernet	10 ギガビット イーサネット インターフェイス。

例

次の例では、スロット 0 ポート 0 のギガビット イーサネット インターフェイスを、SIP パラメータの DHCP プロビジョニング用の DHCP インターフェイスとして設定しています。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# interface gigabitethernet 0/0
Router(config-if)# ip address dhcp
Router(config-if)# sip-ua
Router(sip-ua)# dhcp interface gigabitethernet 0/0
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interfaces	インターフェイスに関する情報を表示します。
sip-ua	SIP ユーザ エージェント コンフィギュレーション モードを開始します。

dial-control-mib

コール履歴テーブルの属性を指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dial-control-mib** コマンドを使用します。コール履歴テーブルのデフォルトの最大サイズまたは保持時間を復元するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
dial-control-mib {max-size table-entries | retain-timer minutes}
no dial-control-mib {max-size table-entries | retain-timer minutes}
```

構文の説明

max-size <i>table-entries</i>	コール履歴テーブルのテーブルエントリの最大数。範囲は 0 ~ 3,000 です。 (注) 値 0 を指定すると、それ以上のエントリがテーブルに追加されなくなります。既存のテーブルエントリはすべて、 retain-timer キーワードで指定された期間保持されます。
retain-timer <i>minutes</i>	エントリがコール履歴テーブルに保持される期間 (分単位)。範囲は 0 ~ 35791 です。 (注) 値 0 を指定すると、それ以上テーブルエントリが保持されなくなりますが、現在有効なタイマーには影響しません。したがって、既存のテーブルエントリは、以前に retain-timer キーワードで指定された期間だけ残ります。

コマンド デフォルト

デフォルトのコール履歴テーブルの長さは、500 テーブルエントリです。デフォルトは 15 分です。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズルータに導入されました。
12.0(1)XA	このコマンドは Cisco MC3810 の CDR 機能に最初に適用されました。
12.0(2)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.0(2)T に統合されました。
12.3T	max-size キーワードに続く <i>table-entries</i> 引数の最大値が 1,200 エントリに増加しました。
12.3(8)T	retain-timer キーワードに続く <i>minutes</i> 引数の最大値が 35,791 分に減少しました。

例

次の例では、400 エントリを保持し、各エントリが 10 分間テーブルに残るようにコール履歴テーブルを設定しています。

```
dial-control-mib max-size 400  
dial-control-mib retain-timer 10
```

dial-peer cor custom

名前付き制限クラス（COR）がダイヤルピアに適用されるように指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **dial-peer cor custom** コマンドを使用します。

dial-peer cor custom

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作やキーワードはありません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(3)T	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Bengaluru 17.6.1a	YANGモデルでのサポートが導入されました。

使用上のガイドライン

COR ルールを指定して特定のダイヤルピアに適用する前に、**dial-peer cor custom** コマンドと **name** コマンドを使用して機能の名前を定義する必要があります。

定義可能な名前の中には、call1900、call527、call9、call911 などがあります。



(注) 最大 64 の COR 名を定義できます。

例

次の例では、2 つの COR 名を定義しています。

```
dial-peer cor custom
 name samplegroup32
 name samplegroup12
```

関連コマンド

コマンド	説明
name (dial peer cor custom)	カスタム COR の名前を提供します。

dpg

構文の説明



コマンド デフォルト

コマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更内容

使用上のガイドライン



(注)

例

関連コマンド

コマンド	説明

dial-peer cor list

制限クラス (COR) リスト名を定義するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dial-peer cor list** コマンドを使用します。以前に定義した COR リスト名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dial-peer cor list *list-name*
no dial-peer cor list *list-name*

構文の説明	<i>list-name</i>	特定の番号または交換機への着信または発信コールに適用されるリスト名。
-------	------------------	------------------------------------

コマンド デフォルト デフォルトの動作やキーワードはありません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(3)T	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Bengaluru 17.6.1a	YANG モデルでのサポートが導入されました。

使用上のガイドライン COR リストでは、着信ダイヤルピアと発信ダイヤルピア間の COR チェックで使用される機能セットを定義します。

例 次の例では、list1 という COR リストに 2 つのメンバーを追加しています。

```
dial-peer cor list list1
  member 900block
  member 800call
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dial-peer cor custom	名前付き COR のダイヤルピアへの適用を指定します。
	member (dial peer cor list)	メンバーをダイヤルピア COR リストに追加します。
	name (dial peer cor custom)	カスタム COR の名前を提供します。

dial-peer data

データダイヤルピアを作成し、ダイヤルピアコンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **dial-peer data** コマンドを使用します。データダイヤルピアを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dial-peer data tag pots
no dial-peer data tag

構文の説明

tag	ダイヤルピアの ID 番号を指定します。範囲は 1 ～ 2,147,483,647 です。
pots	着信 POTS ダイヤルピアを指定します。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンドモード

グローバルコンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(13)T	このコマンドが導入されました。
12.4(4)XC	このコマンドが Cisco 2600XM シリーズ、Cisco 2800 シリーズ、Cisco 3700 シリーズ、Cisco 3800 シリーズで導入されました。
12.4(9)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.4(9)T に組み込まれました。

使用上のガイドライン

データダイヤルピアは、着信データコールに対してのみ定義する必要があります。データダイヤルピアで **incoming called-number** および **shutdown** コマンドが許可されます。ただし、次の POTS ダイヤルピアコマンドは、データダイヤルピアでは無効化されています。

- **answer-address**
- **carrier-id**
- **destination-pattern**
- **information-type**
- **port**
- **trunk-group-label**

例

次の例では、データダイヤルピアの設定です。

```
dial-peer data 100 pots
  incoming called-number 100
```

次の例では、音声ダイヤルピアの設定です。

```
dial-peer voice 2001 pots
destination-pattern 2001
no digit-strip
port 3/1:1
```

関連コマンド

コマンド	説明
dial-peer search	音声またはデータのダイヤルピア検索を最適化します。
incoming called-number	MMoIP または POTS ダイヤルピアの着信中の着信番号を指定します。
shutdown (dial peer)	選択したダイヤルピアの管理状態をアップからダウンに変更します。

dial-peer hunt

ダイヤルピアのハント選択順序を指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dial-peer hunt** コマンドを使用します。デフォルトの選択順序を復元するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dial-peer hunt hunt-order-number
no dial-peer hunt

構文の説明

<i>hunt-order-number</i>	<p>事前定義されたハンティング選択順序を選択する 0～7 の数字:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 -- 電話番号の最長一致、明示的な優先順位、ランダム選択。これはデフォルトのハント順番です。 • 1 -- 電話番号の最長一致、明示的な優先順位、最も低い使用頻度。 • 2 -- 明示的な優先順位、電話番号の最長一致、ランダム選択。 • 3 -- 明示的な優先順位、電話番号の最長一致、最も低い使用頻度。 • 4 -- 最近の使用、電話番号の最長一致、明示的な優先順位。 • 5 -- 最も低い使用頻度、明示的な優先順位、電話番号の最長一致。 • 6 -- ランダム選択。 • 7 -- 最も低い使用頻度。
--------------------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトは、電話番号の最長一致、明示的な優先順位、ランダム選択（ハント順序番号 0）です。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(7)XK	このコマンドが Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 7200 シリーズ、Cisco MC3810、Cisco AS5300 のプラットフォームに導入されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。

使用上のガイドライン

ハントグループを設定している場合は、**dial-peer hunt** ダイヤルピア コンフィギュレーション コマンドを使用します。「電話番号の最長一致」とは、ダイヤルされた桁の最大数に一致する接続先パターンを指します。「明示的な優先順位」は、ダイヤルピア構成の **preference** コマンド設定を指します。「最も低い使用頻度」とは、選択されてから最も長く待機している接続先パターンを指します。「ランダム選択」は、ランダム選択モードですべての接続先パターンを均等に重み付けします。

このコマンドは、POTS、VoIP、Voice over Frame Relay (VoFR)、Voice over ATM (VoATM)、Multimedia Mail over Internet Protocol (MMOIP) ダイアルピアに適用されます。

例

次の例では、(1) 電話番号の最長一致、(2) 明示的な優先順位、(3) ランダム選択の順でハントするようにダイアルピアを設定します。

```
dial-peer hunt 0
```

関連コマンド

コマンド	説明
destination-pattern	ダイアルピアのプレフィックスまたは完全な電話番号を指定します。
preference	ハントグループ内のダイアルピアの優先選択順序を指定します。
show dial-peer voice	ダイアルピアの設定情報を表示します。

dial-peer inbound selection creation-order

最も長い一致番号を並べ替えるときに、作成順序を変更せずに着信ダイヤルピアの選択を有効化するには、**dial-peer inbound selection creation-order** コマンドを使用します。デフォルトの動作に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します

dial-peer inbound selection creation-order
no dial-peer inbound selection creation-order

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作では、ヒープソートアルゴリズムが不安定なため、一致した桁数が同じである複数のダイヤルピアに対して作成順序が保持されることは保証されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS 15.6(1)T	このコマンドが導入されました。

例

```
Device(config)# dial-peer inbound selection creation-order
```

dial-peer inbound selection sip-trunk

着信 SIP 回線側コールが SIP トランク側コールと同じダイヤルピア マッチングルールを使用できるようにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **dial-peer inbound selection sip-trunk** コマンドを使用します。デフォルトの動作に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dial-peer inbound selection sip-trunk
no dial-peer inbound selection sip-trunk

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

無効化（SIP 回線側と SIP トランク側のコールは、異なるダイヤルピア マッチングルールを使用します）。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(11)T2	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、SIP トランクからのコールに使用されるものと同じダイヤルピア マッチングルールを、SIP 電話（回線側）からの着信コールに適用します。以下の最初の表では、SIP 回線側コールにデフォルトで適用されるルールとその順序を示しています。2番目の表は、**dial-peer inbound selection sip-trunk** コマンドが使用された際に SIP トランク側コールと SIP ライン側コールに適用されるルールと順序を示しています。

ルータは、ダイヤルピアの設定とコールパラメータを検索して、ダイヤルピアへのインバウンドコールを照合します。すべてのダイヤルピアは、最初の一致基準に基づいて検索されます。ルータは、一致が見つからない場合にのみ、次の基準に進みます。

表 3: SIP 電話（回線側）からのインバウンドコールのダイヤルピア マッチングルール

照合順序	Cisco IOS コマンド	着信コールパラメータ
1	destination-pattern	発信者番号
2	answer-address	発信者番号
3	incoming called-number	着信者番号
4	incoming uri request	Request-URI
5	incoming uri to	URI へ
6	incoming uri from	URI から
7	carrier-id source	キャリアはコールに関連付けられています

表 4: SIP トランクからのインバウンドコールのダイヤルピア マッチングルール

照合順序	Cisco IOS コマンド	着信コールパラメータ
1	incoming uri request	Request-URI
2	incoming uri to	URI へ
3	incoming uri from	URI から
4	incoming called-number	着信者番号
5	answer-address	発信者番号
6	destination-pattern	発信者番号
7	carrier-id source	キャリアはコールに関連付けられています

例

次の例では、SIP 回線側コールがトランク側コールと同じ一致ルールを使用することを示しています。

```
dial-peer inbound selection sip-trunk
```

関連コマンド

コマンド	説明
answer-address	ダイヤルピアと照合する発信者番号を指定します。
destination-pattern	ダイヤルピアと照合する電話番号を指定します。
dial-peer voice	特定のダイヤルピアを定義します。
incoming called-number	ダイヤルピアに一致する着信中の着信番号。
incoming uri	VoIP ダイヤルピアを着信コールの Uniform Resource Identifier (URI) と照合するために使用される音声クラスを指定します。
show dial-peer voice	ダイヤルピアの設定情報を表示します。

dial-peer no-match disconnect-cause

インバウンド音声またはモデムダイヤルピアが一致しない場合に着信 ISDN または個別線信号方式 (CAS) コールを切断するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dial-peer no-match disconnect-cause** コマンドを使用します。デフォルトの着信コール状態を復元するには (コールはダイヤラに転送されます)、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dial-peer no-match disconnect-cause *cause-code-number*

no dial-peer no-match disconnect-cause *cause-code-number*

構文の説明	<i>cause-code-number</i>	ISDN 原因コード番号。範囲は 1 ~ 127 です。
-------	--------------------------	------------------------------

コマンド デフォルト コールはダイヤラに転送され、モデムコールとして処理されます。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(13)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、インバウンドダイヤルピアが一致しない場合、コールはダイヤラに転送され、モデムコールとして処理されます。**dial-peer no-match disconnect-cause** コマンドは、インバウンド音声またはモデムダイヤルピアが一致しない場合、着信 ISDN または CAS コールを切断するように動作を変更します。

ISDN 原因コードのリストについては、『Cisco IOS デバッグ コマンド リファレンス』の「ISDN 原因値」の表を参照してください。

例

次の例では、インバウンド音声またはモデムダイヤルピアに一致するように ISDN 原因コード 47 が指定されていることを示しています。

```
dial-peer no-match disconnect-cause 47
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show dial-peer voice	ダイヤルピアの設定情報を表示します。

dial-peer outbound status-check pots

コールセットアップ中にアウトバウンドPOTSダイヤルピアのステータスを確認し、そのコールに対してステータスがダウンのダイヤルピアを許可しないようにするには、特権EXECモードで **dial-peer outbound status-check pots** コマンドを使用します。ポリシーチェックを無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dial-peer outbound status-check pots
no dial-peer outbound status-check pots

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、コールセットアップ中にエンドポイント（音声ポートまたはトランクグループ）がダウンしているアウトバウンドPOTSダイヤルピア（ephoneのものを除く）を禁止します。

dial-peer outbound status-check pots コマンドを設定すると、アウトバウンドPOTSダイヤルピアで設定された音声ポートがダウンしている場合、対応する **destination-pattern** に一致している間、そのダイヤルピアは除外されます。したがって、指定された **destination-pattern** に一致するアウトバウンドPOTSダイヤルピアが他にない場合、ゲートウェイでは、デフォルトで「エラーコード 404 存在しません (404 Not Found)」SIP にマッピングされる原因コード 1（未割り当て/未割り当ての番号）でコールを切断します。**no** コマンドの形式が設定されていると、下に設定された音声ポートがダウンしている場合でもアウトバウンドPOTSダイヤルピアが一致し、ゲートウェイでは、デフォルトで「エラーコード 503 サービスは利用できません (503 Service Unavailable)」SIP 応答にマッピングされている原因コード 34（使用可能な回線/チャンネルがありません）でコールを切断します。



(注) **dial-peer outbound status-check pots** コマンドが導入される前は、「エラーコード 503 サービスは利用できません (503 Service Unavailable)」がデフォルトでの動作でした。元の動作が必要なユーザは、このコマンドの **no** 形式を設定する必要があります。

次の表は、アウトバウンドPOTSダイヤルピアがアップまたはダウンする条件を示しています。

表 5: アウトバウンド POTS ダイアルピアがアップまたはダウンする条件

ダイアルピアの状態	条件	その後のダイアルピアの状態
動作ステータス : アップ	音声ポート : アップ そのダイアルピアのトランクグループと関連するトランク : アップ	アップ
動作ステータス : ダウン	--	下へ
音声ポート : ダウン		
トランクグループ : ダウン	関連するすべてのトランク : ダウン	

すべてまたは選択したダイアルピアのステータス（アップまたはダウン）を表示または確認するには、**show dial-peer voice** コマンドを使用します。

例

関連する次の **show dial-peer voice** コマンドの出力例は、すべてまたは選択されたダイアルピアのステータスを示しています。**dial-peer outbound status-check pots** コマンドを使用して、ダウンしているアウトバウンドPOTSダイアルピアを不許可にできます。

次の例では、すべてのダイアルピアの簡単なステータスの概要を示しています。アウトバウンドステータスは [OUT STAT] フィールドに表示されています。POTS ダイアルピア 31 および 42 はダウンとして表示されています。

```
Router# show dial-peer voice summary
dial-peer hunt 0
          AD
TAG  TYPE  MIN  OPER  PREFIX  DEST-PATTERN  PRE  PASS  FER  THRU  SESS-TARGET  OUT  STAT  PORT
444  voip  up   up
22   voip  up   up
12   pots  up   up      5550123 0
311  voip  up   up
31   pots  up   up      5550111
421  voip  up   up      5550199 0  syst  ipv4:1.8.56.2
42   pots  up   up      0
                                up   4/0:15
                                down 4/1:15
                                down
```

次の例では、ダイアルピア 12 のステータスを示しています。アウトバウンドステータスは [Outbound state] フィールドに表示されています。ダイアルピアはアップとして表示されています。

```
Router# show dial-peer voice 12
VoiceEncapPeer12
peer type = voice, information type = voice,
description = ``,
tag = 12, destination-pattern = `5550123`,
answer-address = ``, preference=0,
CLID Restriction = None
CLID Network Number = ``
CLID Second Number sent
source carrier-id = ``, target carrier-id = ``,
source trunk-group-label = ``, target trunk-group-label = ``,
```

```

numbering Type = `unknown'
group = 12, Admin state is up, Operation state is up,
Outbound state is up, <----- display status
incoming called-number = `', connections/maximum = 0/unlimited,
DTMF Relay = disabled,
huntstop = disabled,
in bound application associated: 'DEFAULT'
out bound application associated: ''
dnis-map =
permission :both
incoming COR list:maximum capability
outgoing COR list:minimum requirement
Translation profile (Incoming):
.
.
.

```

次の例では、ダイヤルピア31のステータスを示しています。アウトバウンドステータスは [Outbound state] フィールドに表示されています。ダイヤルピアはダウンと表示されています。

```

Router# show dial-peer voice 31
VoiceEncapPeer31
peer type = voice, information type = voice,
description = `',
tag = 31, destination-pattern = `5550111',
answer-address = `', preference=0,
CLID Restriction = None
CLID Network Number = ` '
CLID Second Number sent
source carrier-id = `', target carrier-id = `',
source trunk-group-label = `', target trunk-group-label = `',
numbering Type = `unknown'
group = 31, Admin state is up, Operation state is up,
Outbound state is down, <----- display status
incoming called-number = `', connections/maximum = 0/unlimited,
DTMF Relay = disabled,
huntstop = disabled,
in bound application associated: 'DEFAULT'
out bound application associated: ''
dnis-map =
permission :both
incoming COR list:maximum capability
outgoing COR list:minimum requirement
Translation profile (Incoming):
.
.
.

```

これらの出力に表示されるその他の重要なフィールドの説明については、**show dial-peer voice** コマンドを参照してください。

関連コマンド

コマンド	説明
show dial-peer voice	音声ダイヤルピアの情報を表示します。

dial-peer search type

音声またはデータのダイヤルピア検索を最適化するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **dial-peer search type** コマンドを使用します。これらの検索パラメータを無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
dial-peer search type {data voice | data voice | none}
no dial-peer search type
```

構文の説明	パラメータ	説明
	data	データダイヤルピアを検索します。
	none	入力順にすべてのダイヤルピアを検索します。
	voice	音声ダイヤルピアを検索します。

コマンド デフォルト **data** および **voice**

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (confing)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(13)T	このコマンドが導入されました。
	12.4(4)XC	このコマンドが Cisco 2600XM シリーズ、Cisco 2800 シリーズ、Cisco 3700 シリーズ、Cisco 3800 シリーズで導入されました。
	12.4(9)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.4(9)T に組み込まれました。

使用上のガイドライン 検索では、検索設定を明示的に定義します。**data** および **voice** キーワードを指定すると、データダイヤルピアが最初に検索されます。データダイヤルピアが見つからない場合は、音声ダイヤルピアが検索されます。

例

次に、データダイヤルピアが最初に検索されることを示す出力例を示します。次に、着信コールに一致するデータダイヤルピアがない場合、音声ダイヤルピアが検索されます。

```
dial-peer search type data voice
```

次に、音声ダイヤルピアが最初に検索されることを示す出力例を示します。次に、着信コールに一致する音声ダイヤルピアがない場合、データダイヤルピアが検索されます。

```
dial-peer search type voice data
```

関連コマンド

コマンド	説明
dial-peer data	POTS ダイアルピアをデータとして割り当てることにより、ゲートウェイが最初に着信データコールを処理できるようにします。

dial-peer terminator

可変長ダイヤル番号の終端として使用する文字を変更するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **dial-peer terminator** コマンドを使用します。デフォルトの終端の数字を復元するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dial-peer terminator 文字
no dial-peer terminator

構文の説明	<i>character</i> 可変長ダイヤル番号の終端の文字を指定します。有効な数字と文字は、#、*、0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、a、b、c、d です。デフォルトは # です。
-------	--

コマンドデフォルト デフォルトの終端の文字は # です。

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.0	このコマンドが導入されました。
	12.0(7)XK	可変長のダイヤル番号に使用が制限されていました。このコマンドが Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco MC3810 に導入されました。
	12.1(2)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.1(2)T に統合されました。

使用上のガイドライン 世界には、電話番号の長さが異なるエリア（ヨーロッパの特定の国など）があります。ダイヤル番号文字列が可変長ダイヤル番号として識別されると、システムでは、**timeouts interdigit** コマンドの設定値が時間切れになるか、発信者が終端の文字をダイヤルするまで発信しません。終端の文字を変更するには、**dial-peer terminator** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用します。

例

次の例では、可変長ダイヤル番号の終了文字として「9」が指定されていることを示しています。

```
dial-peer terminator 9
```

関連コマンド	コマンド	説明
	answer-address	着信コールのダイヤルピアを識別するために使用される完全な E.164 電話番号を指定します。
	destination-pattern	ダイヤルピアのプレフィックスまたは完全な電話番号を指定します。
	timeouts interdigit	指定された音声ポートの桁間タイムアウト値を設定します。

コマンド	説明
show dial-peer voice	ダイヤルピアの設定情報を表示します。

dial-peer video

ローカルビデオコーデックまたはリモートビデオコーデックのビデオ ATM ダイアルピアを定義し、ビデオ関連のカプセル化を指定して、ダイアルピア コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dial-peer video** コマンドを使用します。ビデオダイアルピアを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dial-peer video tag {videocodec | videoatm}
no dial-peer video tag {videocodec | videoatm}

構文の説明	
tag	特定のダイアルピアを定義する番号。ダイアルピアを定義し、プロトコルタイプをピアに割り当てます。範囲は 1 ~ 10000 です。tag はルータで一意である必要があります。
videocodec	ルータに接続されているローカルビデオコーデックを指定します。
videoatm	ATM ネットワーク上のリモートビデオコーデックを指定します。

コマンド デフォルト ビデオダイアルピアが設定されていません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.0(5)XK	このコマンドが Cisco MC3810 の ATM インターフェイス コンフィギュレーション用に導入されました。
	12.0(7)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.0(7)T に統合されました。

使用上のガイドライン tag 値は、デバイスに固有のものである必要があります。

例 次の例では、10 に指定されたローカルビデオダイアルピアを設定しています。

```
dial-peer video 10 videocodec
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show dial-peer video	ダイアルピアビデオコンフィギュレーションを表示します。

dial-peer voice

特定のダイヤルピアを定義し、音声カプセル化の方法を指定し、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dial-peer voice** コマンドを使用します。定義済みのダイヤルピアを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

Cisco 1750 および Cisco 1751 モジュラアクセスルータ

```
dial-peer voice tag {pots|vofr|voip system}
no dial-peer voice tag {pots|vofr|voip system}
```

Cisco 2600 シリーズ、Cisco 2600XM、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3700 シリーズ、Cisco 7204VXR、Cisco 7206VXR

```
dial-peer voice tag {pots|voatm|vofr|voip system}
no dial-peer voice tag {pots|voatm|vofr|voip system}
```

Cisco 7200 シリーズ

```
dial-peer voice tag vofr
no dial-peer voice tag vofr
```

Cisco AS5300

```
dial-peer voice tag {mmoip|pots|vofr|voip system}
no dial-peer voice tag {mmoip|pots|vofr|voip system}
```

構文の説明

tag	特定のダイヤルピアを定義する番号。範囲は 1 ~ 2,147,483,647 です。
pots	IP バックボーンで VoIP カプセル化を使用する POTS ピアであることを示します。
vofr	フレームリレー バックボーン ネットワークで FRF.11 カプセル化を使用する Voice over Frame Relay (VoFR) ダイヤルピアであるように指定します。
voip	POTS ネットワークで、音声カプセル化を使用する VoIP ピアであることを示します。
system	VoIP を利用したシステムであることを示します。
voatm	これが、ATM バックボーンネットワークでリアルタイム ATM アダプテーション層 5 (AAL5) 音声カプセル化を使用する Voice over ATM (VoATM) ダイヤルピアであるように指定します。
mmoip	IP バックボーンで VoIP カプセル化を使用するマルチメディアメールピアであることを示します。

コマンド デフォルト

ダイヤルピアは定義されていません。音声カプセル化メソッドは指定されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
	11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に導入され、 pots 、 voatm 、 vofr 、 vohdlc キーワードがサポートされました。
	12.0(3)T	このコマンドが Cisco AS5300 に導入され、 pots および voip キーワードがサポートされました。
	12.0(3)XG	Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズに vofr キーワードが追加されました。
	12.0(4)T	Cisco 7200 シリーズに vofr キーワードが追加されました。
	12.0(4)XJ	Cisco AS5300 に mmpip キーワードが追加されました。 dial-peer voice コマンドは、ストアアンドフォワード FAX 用に導入されました。
	12.0(7)XK	Cisco MC3810 に voip キーワードが追加され、Cisco 3600 シリーズに voatm キーワードが追加されました。Cisco MC3810 での vohdlc キーワードのサポートを廃止しました。
	12.1(1)	Cisco IOS リリース 12.0(4)XJ の mmpip キーワードの追加は、Cisco IOS リリース 12.1(1) に統合されました。ストアアンドフォワード FAX での dial-peer voice の導入は、Cisco IOS リリース 12.1(1) に統合されました。
	12.1(2)T	Cisco IOS リリース 12.0(7)XK でのキーワードの変更は、Cisco IOS リリース 12.1(2)T に統合されました。
	12.1(5)T	このコマンドは Cisco AS5300 で導入され、Cisco IOS リリース 12.1(5)T に統合されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に導入されました。
	12.2(2)XN	拡張 Media Gateway Control Protocol (MGCP) 音声ゲートウェイの相互運用性のサポートが、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco VG200 の Cisco CallManager バージョン 3.1 に追加されました。
	12.2(8)T	このコマンドが Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、Cisco 3745 に導入されました。
	12.2(11)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(11)T および Cisco CallManager バージョン 3.2 に統合されました。このコマンドが Cisco IAD2420 シリーズ IAD に導入されました。
	12.2(13)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(13)T に統合され、Cisco 2600XM、Cisco ICS7750、Cisco VG200 に導入されました。
	12.4(22)T	IPv6 のサポートが追加されました。

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r	YANG モデルのサポートが開始されました。

使用上のガイドライン

dial-peer voice グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、グローバルコンフィギュレーションモードからダイヤルピアコンフィギュレーションモードに切り替え、特定のダイヤルピアを定義します。**exit** コマンドを使用して、ダイヤルピアコンフィギュレーションモードを終了してグローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。

新しく作成されたダイヤルピアは、**dial-peer voice** コマンドの **no** 形式で削除するまで、定義され、アクティブ状態を維持します。ダイヤルピアを無効化するには、ダイヤルピアコンフィギュレーションモードで **no shutdown** コマンドを使用します。

Cisco AS5300 のストアアンドフォワード FAX では、POTS ダイヤルピアによって送信側 FAX デバイスから受信側 Cisco AS5300 へのインバウンド FAX 回線の特性と、送信側 Cisco AS5300 から受信側 FAX デバイスへのアウトバウンド回線特性を定義します。Multimedia Mail over Internet Protocol (MMoIP) ダイヤルピアは、Cisco AS5300 から受信側の Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) メールサーバーへのインバウンド FAX 回線の特性を定義します。このコマンドは、オンランプとオフランプの両方のストアアンドフォワード FAX 機能で動作します。



- (注) Cisco AS5300 では、モデム ISDN チャンネル集約 (MICA) テクノロジーモデムがある場合にのみ MMoIP を使用できます。

例

次の例では、ダイヤルピアコンフィギュレーションモードにアクセスし、ダイヤルピア 10 として識別される POTS ピアと、ダイヤルピア 20 として識別される MMoIP ダイヤルピアを設定する方法を示しています。

```
dial-peer voice 10 pots
dial-peer voice 20 mmoip
```

次の例では、ダイヤルピア 20 として識別された MMoIP ピアを削除しています。

```
no dial-peer voice 20 mmoip
```

次の例では、**dial-peer voice** コマンドを使用して拡張エコーキャンセラを設定する方法を示しています。この場合、**pots** は、これが IP バックボーンで VoIP カプセル化を使用する POTS ピアであることを示し、一意の数値 ID タグ 133001 を使用します。

```
Router(config)# dial-peer voice 133001 pots
```

関連コマンド

コマンド	説明
codec (dial-peer)	VoFR ダイヤルピアに対する音声の音声コーデートを指定します。

コマンド	説明
destination-pattern	ダイヤルピアに使用するプレフィックスまたは完全な E.164 電話番号、ISDN 電話番号を指定します。
dtmf-relay (Voice over Frame Relay)	ダイヤルピアの FRF.11 Annex A フレームの生成を有効化します。
preference	ロータリーハントグループ内のダイヤルピアの優先順序を示します。
sequence-numbers	VoFR アプリケーションの DSP によって生成される各フレームでシーケンス番号の生成を有効化します。
session protocol	パケットネットワーク経由のローカルルータとリモートルータ間のコールで使用するセッションプロトコルを確立します。
session target	特定のダイヤルピアまたは接続先ゲートキーパーにネットワーク固有のアドレスを指定します。
shutdown	選択したダイヤルピアの管理状態をアップからダウンに変更します。

dial-type

音声ポートインターフェイスのアウトダイヤルタイプを指定するには、音声ポート コンフィギュレーション モードでコマンドを使用します。 **dial-type** 選択したダイヤルタイプを無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dial-type {dtmf | pulse | mf}
no dial-type

構文の説明

dtmf	デュアルトーン多重周波数 (DTMF) タッチトーンダイヤル。
pulse	パルス (回転) ダイヤル。
mf	マルチ周波数トーンダイヤル。

コマンド デフォルト

DTMF タッチトーンダイヤル。

コマンド モード

音声ポート コンフィギュレーション (config-voiceport)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
11.3(1)MA3	このコマンドが Cisco MC3810 に導入され、 pulse キーワードが追加されました。
12.0(7)XK	mf キーワードが追加されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。
12.1(5)XM	このコマンドは、マージされた SGCP/MGCP ソフトウェアまで拡張されました。
12.2(2)T	このコマンドが Cisco 7200 シリーズに導入され、 Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合され、 Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に導入されました。

使用上のガイドライン

dial-type コマンドを使用して、Foreign Exchange Office (FXO) または E&M 音声ポートインターフェイスのアウトダイヤルタイプを指定します。このコマンドでは、桁検出とアウトパルスのトーンタイプを指定します。ポートはアウトダイヤルを生成しないため、このコマンドは Foreign Exchange Station (FXS) 音声ポートには適用されません。このコマンドでは、検出方向も指定します。マルチ周波数トーンダイヤルは、FXS および FXO ではサポートされていません。

音声ポートは DTMF およびパルス信号を常に検出できます。このコマンドは、音声ポートのダイヤル検出には影響しません。

dial-type コマンドは、ダイヤルピアに設定されているアウトダイヤルに効果があります。

E&M ウィンクスタート シグナリングで **dial-type** コマンドを使用している場合は、**dtmf** または **mf** オプションを使用します。

SGCP 1.1+ ではパルスダイヤルをサポートしていません。

例

次の例では、回転（パルストーン）ダイヤラをサポートするように設定された音声ポートを示しています。

```
Router(config)# voice-port 1/1
Router(config-voice-port)# dial-type pulse
```

次の例では、DTMF（タッチトーン）ダイヤラをサポートするように設定された音声ポートを示しています。

```
Router(config)# voice-port 1/1
Router(config-voice-port)# dial-type dtmf
```

次の例では、マルチ周波数トーンダイヤラをサポートするように設定された音声ポートを示しています。

```
Router(config)# voice-port 1/1
Router(config-voice-port)# dial-type mf
```

関連コマンド

コマンド	説明
sgcp	SGCP デーモンのリソースを起動して割り当てます。
sgcp call-agent	デフォルトの SGCP コールエージェントの IP アドレスを定義します。

dialer extsig

外部シグナリングプロトコルを使用してコールを開始および終了するようにインターフェイスを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **dialer extsig** コマンドを使用します。外部シグナリングプロトコルによるインターフェイスの制御を中止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dialer extsig
no dialer extsig

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(2)XB	このコマンドが導入されました。
12.2(11)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合され、Cisco AS5850 に導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、メディアゲートウェイ コントロール プロトコル機能のネットワークアクセス サーバーパッケージと共に使用されます。**dialer in-band** コマンドの設定は、このコマンドを使用するための前提条件です。構成は、プロファイルダイヤラに対してブロックされます。

例

次の例では、設定されている外部シグナリングプロトコルを使用してコールを開始および終了するインターフェイスを示しています。

```
Router(config)# interface Dialer1
Router(config-if)# dialer extsig
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug dialer	ダイヤルオンデマンドイベントとダイヤルオンデマンドトラフィックの2種類のダイヤラ情報のデバッグ情報を提供します。
dialer in-band	DDR がサポートされるように指定します。
extsig mgcp	T1 または E1 トランクコントローラカードの MGCP による外部シグナリング制御を設定します。
show dialer	DNIS、インターフェイス、マップ、セッションのダイヤラ関連情報を表示します。

dialer preemption level

ダイヤラマップのダイヤルオンデマンドルーティング（DDR）コールによって優先される音声コールの優先順位を設定するには、マップクラスダイヤラ コンフィギュレーション モードで **dialer preemption level** コマンドを使用します。プリエンプション設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dialer preemption level {flash-override | flash | immediate | priority | routine}
no dialer preemption level {flash-override | flash | immediate | priority | routine}

構文の説明	オプション	説明
	flash-override	DDR コールの優先度をプリエンプションレベル 0（最高）に設定します。
	flash	DDR コールの優先度をプリエンプションレベル 1 に設定します。
	immediate	DDR コールの優先度をプリエンプションレベル 2 に設定します。
	priority	DDR コールの優先度をプリエンプションレベル 3 に設定します。
	routine	DDR コールの優先度をプリエンプションレベル 4（最低）に設定します。これはデフォルトです。

コマンド デフォルト プリエンプションレベルのデフォルトは、**routine**（最低）です。

コマンド モード マップクラスダイヤラ コンフィギュレーション（config-map-class）

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.4(4)XC	このコマンドが導入されました。
	12.4(9)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.4(9)T に組み込まれました。

例

次の例では、ダイヤラマップクラス *dial1* の優先順位レベル（レベル 3）を設定しています。

```
Router(config)# map-class dialer dial1
Router(config-map-class)# dialer preemption level priority
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dialer map	シリアルインターフェイスまたは ISDN インターフェイスを設定して、1 つまたは複数のサイトをコールするか、複数のサイトからのコールを受信します。
	dialer trunkgroup	ダイヤラインターフェイスのダイヤルオンデマンド トランクグループラベルを定義します。

map-class dialer	ISDN インターフェイスからの発信コールおよび PPP コールバックの dialermap コマンドに関連付けられた共有設定パラメータのクラスを定義します。
preemption enable	トランク グループでプリエンプション機能をイネーブルにします。
preemption level	選択したアウトバウンドダイヤルピアのプリエンプションレベルを設定します。音声コールは、優先レベルの高い DDR コールによって優先される可能性があります。
preemption tone timer	DDR バックアップコールによって優先される発信コールのプリエンプショントーンの有効期限を定義します。

dialer trunkgroup

ダイヤルインターフェイスのダイヤルオンデマンドトランクグループラベルを定義するには、`map-class` ダイアラ コンフィギュレーション モードで **dialer trunkgroup** コマンドを使用します。トランクグループラベルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dialer trunkgroup label
no dialer trunkgroup label

構文の説明

<i>label</i>	ダイヤルインターフェイス トランクグループの一意の名前。有効な名前は、63 文字以内の英数字で構成されます。
--------------	--

コマンド デフォルト

ダイヤラトランクグループが定義されていません。

コマンド モード

マップクラスダイアラ コンフィギュレーション (config-map-class)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(4)XC	このコマンドが導入されました。
12.4(9)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.4(9)T に組み込まれました。

例

次の例では、ダイヤラ `map-class dial1` に「20」というトランクグループを作成しています。

```
Router(config)# map-class dialer dial1
Router(config-map-class)# dialer trunkgroup 20
```

関連コマンド

コマンド	説明
dialer map	シリアルインターフェイスまたはISDNインターフェイスを設定して、1つまたは複数のサイトをコールするか、複数のサイトからのコールを受信します。
map-class dialer	ISDN インターフェイスからの発信コールおよびPPP コールバックの dialer map コマンドに関連付けられた共有設定パラメータのクラスを定義します。
show dialer	ダイヤルオンデマンドルーティング (DDR) 用に設定されたインターフェイスの一般的な診断情報を表示します。
trunk group	トランクグループ (グローバルコンフィギュレーション) を定義し、トランクグループ コンフィギュレーション モードを開始します。

digit

SCCP テレフォニー制御 (STC) アプリケーション機能の短縮ダイヤルコードの桁数を指定するには、STC アプリケーション機能短縮ダイヤルコンフィギュレーションモードで **digit** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

digit *number*

no digit

構文の説明

<i>number</i>	短縮ダイヤルコードの桁数です。値は、1 または 2 です。デフォルト値は 1 です。
---------------	--

コマンドデフォルト

デフォルトは 1 桁です。

コマンドモード

STC アプリケーション機能短縮ダイヤル コンフィギュレーション (stcapp-fsd)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(6)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、STC アプリケーションで使用され、呼制御に Skinny Client Control Protocol (SCCP) を使用するアナログ FXS エンドポイントの機能が有効化されます。

このコマンドは、**speed dial** コマンドおよび **voicemail** コマンドで設定可能な短縮ダイヤルコードの桁数を決定します。このコマンドは、桁数をデフォルトの 1 から変更する場合にのみ使用してください。このコマンドの値を変更すると、**speed dial** コマンドと **voicemail** コマンドはデフォルトにリセットされます。値を 2 に設定し、1 桁の短縮ダイヤルコードを設定しようとすると、システムでは短縮ダイヤルコードを 2 桁に変換します。

注：各種の短縮ダイヤルコードとともに保存される電話番号は、Cisco CallManager や Cisco CallManager Express ルータなどの呼制御デバイスで設定されます。

例

次の例では、短縮ダイヤルコードの桁数を 2 に設定しています。また、短縮ダイヤルプレフィックスを 1 つのシャープ記号 (#)、短縮ダイヤルコード範囲を 5 ~ 25 に設定します。電話機のユーザは、これらの値を設定した後でキーパッドの #10 を押して、コード 10 に保存された番号にダイヤルします。

```
Router(config)# stcapp feature speed-dial
Router(stcapp-fsd)# prefix #
Router(stcapp-fsd)# digit 2
Router(stcapp-fsd)# speed dial from 5 to 25
```

関連コマンド

コマンド	説明
prefix (stcapp-fsd)	STC アプリケーション機能の短縮ダイヤルコードのダイヤルの前に付けるプレフィックスを指定します。
show stcapp feature codes	設定済みおよびデフォルトの STC アプリケーション機能アクセスコードを表示します。
speed dial	STC アプリケーション機能の短縮ダイヤルコードの範囲を指定します。
voicemail	音声メール番号をダイヤルするための STC アプリケーション機能の短縮ダイヤルコードを指定します。

digit-strip

POTS ダイアルピアコールレグで桁の削除を有効化するには、ダイアルピア コンフィギュレーションモードで **digit - strip command in** を使用します。ダイアルピアコールレグでの桁の削除を無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

digit-strip
no digit-strip

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

桁の削除が有効化されています。

コマンド モード

ダイアル ピア設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(7)XR1	このコマンドが Cisco AS5300 の VoIP に導入されました。
12.0(7)XK	このコマンドは、以下のプラットフォームの音声テクノロジーでサポートされました。 <ul style="list-style-type: none"> • VoIP -- (Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco MC3810) • Voice over Frame Relay (VoFR) -- Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco MC3810 • Voice over ATM (VoATM) -- Cisco 3600 シリーズおよび Cisco MC3810
12.1(1)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.1(1)T に統合されました。
12.1(2)T	このコマンドは、次のプラットフォームの次の音声テクノロジー用に Cisco IOS リリース 12.1(2)T に統合されました。 <ul style="list-style-type: none"> • VoIP (Cisco MC3810) • VoFR (Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco MC3810) • VoATM (Cisco 3600 シリーズ、Cisco MC3810)

使用上のガイドライン

digit-strip コマンドは、POTS ダイアルピアのみでサポートされています。

着信番号を受信して POTS ダイアルピアと一致すると、一致した番号が削除され、残りの番号が音声インターフェイスに転送されます。

次の表は、特定の接続先パターンで設定された一連のダイアルピアをリスト化し、ダイアル文字列 408 555-0148 に基づき、桁を削除した後に一致した最も長い番号を示しています。

表 6: 番号の最長一致によるダイヤルピア設定

ダイヤルピア	宛先パターン (Destination Pattern)	プリファレンス	セッションターゲット	電話番号の最長一致
	4085550148	0 (最高レベル)	100-voip	10
	408[0-9]550148	0	200-voip	9
	408555	0	300-voip	6
	408555	1 (低)	400-voip	6
	408 %	1	500-voip	3
	0	600-voip	0
	1	1:D (インターフェイス)	0

次の表は、特定の接続先パターンで設定された一連のダイヤルピアをリスト化し、ダイヤル文字列 408 555-0148 と異なるダイヤルピアのシンボルが適用されたことに基づき、桁を削除した後の番号を示しています。

表 7: 桁の削除によるダイヤルピア コンフィギュレーション

ダイヤルピア	宛先パターン (Destination Pattern)	桁の削除後の番号
1	408555....	0148
2	408555.%	0148
3	408525.+	0148
4	408555.?	0148
5	408555+	0148
6	408555%	50148
7	408555?	50148
8	408555[0-9].%	30148
9	408555(30).%	30148
10	408555(30)%	30148
11	408555..48	30148

例

次の例では、POTS ダイヤルピアで桁の削除を無効化しています。

```
dial-peer voice 100 pots
no digit-strip
```

関連コマンド

コマンド	説明
numbering-type	VoIP または POTS ダイアルピアの番号タイプを指定します。
rule	着信コールと発信コールの両方の発信側番号または着信側番号に変換ルールを適用します。
show translation-rule	特定の変換名に設定されているすべてのルールの内容を表示します。
test translation-rule	特定の名前タグで変換ルールの実行をテストします。
translation-rule	変換名を作成し、translation-rule コンフィギュレーションモードを開始して、ルールを変換名に適用します。
voip-incoming translation-rule	H.323 互換クライアントから発信されたコールをキャプチャします。

digital-filter

音声パケットがデジタルシグナルプロセッサ (DSP) からネットワークに送信される前に使用するデジタルフィルタを指定するには、音声クラス コンフィギュレーション モードで **digital-filter** コマンドを使用します。デジタルフィルタを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
digital-filter {1950hz | 2175hz}
no digital-filter {1950hz | 2175hz}
```

構文の説明	1950hz	1,950 Hz の周波数をフィルタ処理します。
	2175hz	2,175 Hz の周波数をフィルタ処理します。

コマンド デフォルト デジタルフィルタ処理は無効化されています。

コマンド モード 音声クラス コンフィギュレーション (config-voice-class)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(4)XD	このコマンドが導入されました。
	12.3(7)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。

digital-filter コマンドは、Ear and Mouth (E&M) 音声ポートの信号タイプが陸上移動無線 (LMR) である場合に限り有効です。デジタルフィルタは、LMR システムから VoIP ネットワークへの音声パケットと一緒にガードトーンが送信されるのを防止することで音声品質を向上させます。ガードトーンは、**inject guard-tone** コマンドで設定します。2,175 Hz または 1,950 Hz のいずれかをフィルタ処理するようにデジタルフィルタを設定できます。一度にフィルタ処理できるのは、1 つの周波数のみです。フィルタ処理は DSP で実行します。

例

次の例では、1,950 Hz ガードトーンが DSP からネットワークに送信される前に、音声パケットからフィルタ処理されるように指定しています。

```
voice class tone-signal mytones
digital-filter 1950hz
```

関連コマンド	コマンド	説明
	inject guard-tone	音声パケットでガードトーンを再生します。

direct-inward-dial

着信中の着信番号のダイヤルインメソッド (DID) のコール処理を有効化するには、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで **direct-inward-dial** コマンドを使用します。ダイヤルピアの DID を無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

direct-inward-dial
no direct-inward-dial

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

ダイヤル ピア設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)NA	このコマンドが導入されました。
12.0(4)T	このコマンドは、ストアアンドフォワード FAX 用に変更されました。
12.1(5)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、Cisco 3745 に導入されました。

使用上のガイドライン

direct-inward-dial コマンドを使用して、着信中の着信番号の DID コール処理を有効にします。この機能が有効な場合、着信は DID トランクから受信されたように処理されます。着信者番号は、発信ダイヤルピアの選択に使用されます。ダイヤルトーンは発信者側に聞こえません。

ダイヤルピアで DID を無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。コマンドが無効化されると、着信者番号は発信ダイヤルピアの選択に使用されます。発信者は、ダイヤルトーンによって着信番号の入力を求められます。

このコマンドは、オンランプストアアンドフォワード FAX 機能の単純な旧式の電話サービス (POTS) のダイヤルピアにのみ適用できます。

例

次の例では、着信中の着信番号の DID コール処理を有効化しています。

```
dial-peer voice 10 pots
direct-inward-dial
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。